

## オーディオ実験室収載

### ハイドン盤を聴く(5)(HP収載) —最新アナログシステムでの試聴(5)—

#### 1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディのアナログ盤を聴き直してきました。今回も、ハイドン盤を聴いてみることにしました。

#### 2. ハイドンのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、ハイドンのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次のハイドン盤を聴いていきます

EMI EA-90037～90039

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ「四季」  
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

#### 3. ハイドンのアナログ盤の試聴結果

EMI 盤のオラトリオ「四季」は、EMI、R、第 4 時定数 Low で聴いていきますが、違和感はありません。

このオラトリオ「四季」は、オラトリオ「天地創造」とともにハイドンが取り組んだ大曲で、3 枚組での収録です。

合唱陣の前にソプラノ、テノール、バスが並び、その前にオーケストラが展開するように聴き取れます。ソプラノ、テノール、バスは後方に位置していますので、間接音も含めて明瞭な歌唱です。合唱陣の歌唱は柔らかに響き、オーケストラの弦や木管も柔らかく、低音も明瞭に響きわたります。合唱とオーケストラの強奏にいたっても破綻を見せません。

全般的に、同じ EMI レーベルのクレンペラー指揮フィルハーモニアのヘンデルのオラトリオのメサイア盤によく似た音調です。

#### 4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上